

前橋地域リハビリテーション

広域支援センター

Vol. 39

ニュース



公益財団法人 老年病研究所附属病院内 H28年7月発行

— H27年度事業報告・H28年度事業計画 —

今年度も下記の通り活動を行う予定です。介護予防・地域リハビリテーションの支援・地域の方のリハビリへの理解を高めていけるよう、広域支援センタースタッフ一丸となり活動していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

❖前橋地域リハビリテーション

❖推進協議会の運営❖

前橋地域のリハビリテーションの推進を図るため毎年開催しています。リハビリテーションに関係する各団体の代表に参加いただき、昨年は9月10日に開催しました。広域支援センターの事業報告と事業計画、地域包括ケアシステムにむけての講演や意見交換を行いました。

❖研修会の開催❖

昨年11月14日に「嚥下機能と栄養から考える誤嚥性肺炎の予防」というテーマで研修会を行いました。誤嚥性肺炎を予防するための基礎知識や臨床現場で実践できる介助方法、当院でのリハビリ職の取り組みについて紹介しました。今年度のテーマ・日程等は現在企画中です。次回の情報誌にて案内を同封させていただきます。

❖介護予防サポーター研修❖

7月に初級コース、8月に中級コースが実施され、計100名以上の方が参加されました。また、昨年度2月6日に「介護予防のための糖尿病の基礎知識」のテーマでスキルアップ研修会を行いました。さらに、希望される方を対象に1コース全6回のスキルアップ特別研修を行い、修了者が「認知症を語るカフェ」のスタッフとして活動しています。

今年度も介護予防サポーター研修・スキルアップ研修を予定しています。地域での活動に役立つリハビリ知識を学び合います。興味のある方は是非、ご参加ください！

❖啓発活動❖

情報誌の発行（年3回）、ホームページの運営を行いました。今年度も同様に行っていきます。☆ホームページに、実地指導や出張講座の報告をのせてありますので、ぜひご覧ください。

【<http://www.ronenbyo.or.jp>】



☆相談支援☆

電話相談 13 件、面接相談 1 件行いました。
電話・面接にて当センターリハビリスタッフが相談を受け付けております。(月～金、午前9時～午後5時)「職員向けに勉強会をひらきたい」、「摂食・嚥下について知りたい」、個別のケースについて困っていること、その他リハビリに関する事などお気軽にご相談ください。随時メールやFAXでも受け付けております。

☆実地指導☆

昨年度は5件の依頼があり、入所施設・在宅関連事業所などへ実際に訪問してきました。入所者様への車椅子上のポジショニングや日常生活指導等、身体機能や生活状況に応じたリハビリの指導を行いました。また、スタッフの皆様を対象に、体操やストレッチ、筋トレを実施する上でのポイントや、歩行介助方法などについて相談支援を行いました。

☆いきいき介護予防普及啓発事業☆

介護予防サポーター主催のイベント「介護予防まつり in まえばし」がH27年11月29日前橋市総合福祉会館で開催されました。前橋地域リハビリテーション広域支援センターの活動として、認知症カフェの取り組みについてのパネル展示、体力・健康チェックの体験コーナーを設けました。介護予防サポーターのみなさんの活躍により大盛況となりました。

今年度も開催予定です。多くの方の参加をお待ちしています！

☆認知症を語るカフェ☆

昨年度は計4回実施しました。各自自由にお茶を飲みながら、お話や手芸をしたり、琴演奏や歌、認知症に関する相談などを行いました。今年度は7月から1月まで毎月開催予定です。

☆その他☆

①前橋地域リハビリテーション支援施設連絡会
前橋圏域でリハビリ専門職がいる施設の連絡会を行い、当事業への理解と協力が得られる体制作りを今年度も行っていきます。

②講師派遣

昨年度は計6回実施し、入所者向けの転倒予防教室など講師派遣を行いました。

その他ご要望に合わせて、地域リハビリテーションの関係団体などの研修会・勉強会に講師を派遣します。リハビリテーションの技術移転・スキル向上・生活の場へのリハビリテーションマインドの浸透を図ります。

③リハビリテーション出張講座

当センタースタッフが施設へ伺い、職員の方々と事例検討や情報交換を行います。昨年度は、移乗動作や歩行、腰痛予防等をテーマに2回実施しました。

今年度もどうぞご利用下さい。



スキルアップ研修報告！

H28年2月6日（土）老年病研究所附属病院にて、介護予防サポーターを対象にしたスキルアップ研修が開催されました。研修会のテーマは「介護予防のための糖尿病の基礎知識」で、当院の理学療法士であり糖尿病療養指導士の資格を持つ松村昌俊が講師を務めました。

研修会では、2型糖尿病の原因や症状・合併症について資料や体験を通し解説しました。糖尿病を有する方が運動前に気を付ける点や、運動中にも注意した方がよい高血糖昏睡や足部（足裏・踵等）の傷、低血糖症状（冷汗・眩暈）などについて学べた研修会となりました。また、参加者の皆さんに口腔内の乾燥具合の評価と水分補給の良好なタイミングを体験していただき、運動前後の脱水の危険性や水分補給の即効性・重要性についても学ぶことができました。



院長あいさつの様子

研修会を通して参加者からは、「身近な人に糖尿病を有する方がいるので研修会の内容を教えてあげたい。」や「糖尿病の予防についてもっと学んでいきたい。」など、今後に生かしていきたいという感想を多く聞くことができました。スキルアップ研修は H28 年度にも開催予定ですので、介護予防サポーターさんの参加をお待ちしています。

文責：栗原・梅澤



実際に体を動かしながら体験しています。

皆さん真剣ですね！！

豆知識！

今年4月には熊本地方を震源とする大きな地震がありました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。今回は、災害とリハビリテーションについて考えます。



被災直後のリハビリテーションの役割

～被災直後のリハの5原則～

①それまで行ってきたリハ医療を守ること

リハ医療を守るためにも、病院・施設や診療所でのライフラインの確保や必須物資の備蓄が必要です。

リハ医療福祉関係者は、自分の施設の被災状況や職員の安否の確認を行うとともに、可能な限り緊急の診療を行います。余裕があれば、周辺の避難所の巡回診療も活発に行い、リハ医療を守ることが重要です。

②避難所などでの廃用症候群を予防すること

廃用症候群を予防するための体操などを行う必要があります。

避難民自身が可能な限り避難所の様々な運営（運搬、配給など）に参加するなどの工夫を促し、廃用症候群を予防します。

③新たに生じた各種障害へ対応すること

リハ患者のみならず、被災による外傷や疾患により新たに障がい者になる人が増加します。また、廃用症候群の発生防止に努めても運悪く褥瘡が生じたり、下肢静脈血栓症や肺梗塞などが生じることもあり、適切な対応が必要になります。

④異なった生活環境での機能低下に対する支援をすること

バリアフリーでは自立していた人たちでも、避難所や仮設住宅に段差や坂があるだけで自立を阻まれてしまうことが多いです。可能な限りバリアを取り除いたり、福祉避難所の集約化を行って、異なった生活環境での機能低下に対する支援をすることが重要です。

⑤生活機能向上のための対応をすること

まず、被災者が現在困っていること、望んでいることを優先した対応を行います。

生活機能評価のニーズはこれからじわじわと増えるとは思いますが、この段階であまり明確にすることは、失ったものを際立たせることにもなりかねず注意が必要です。



引用：大規模災害リハビリテーション対応マニュアル

医歯薬出版株式会社

被災地医療の1ヶ月目では救命救急や感染症治療・予防が主でありましたが、2ヶ月目からはこころのケアとともに、リハのニーズが飛躍的に高まることが予想され、地域リハ関係者の果たす役割がますます大きくなるものと考えられます。



★次回以降も災害時の豆知識についてシリーズで掲載していきたいと思っております！！

編集後記

そろそろ夏本番ですね。水分補給を十分して夏を乗り越えましょう！今年度もよろしくお願いたします！！

編集：作業療法士上村・理学療法士樋口

前橋地域リハビリテーション広域支援センター（老年病研究所附属病院内）

☎：027-253-5165 FAX：027-253-8222

e-mail：kouikishien@ronenbyo.or.jp

URL：http://www.ronenbyo.or.jp

